10．岩沼市玉浦西地区地区　防災集団移転のトップランナー

「まちびらきから７年後のまちと暮らしを聞く」

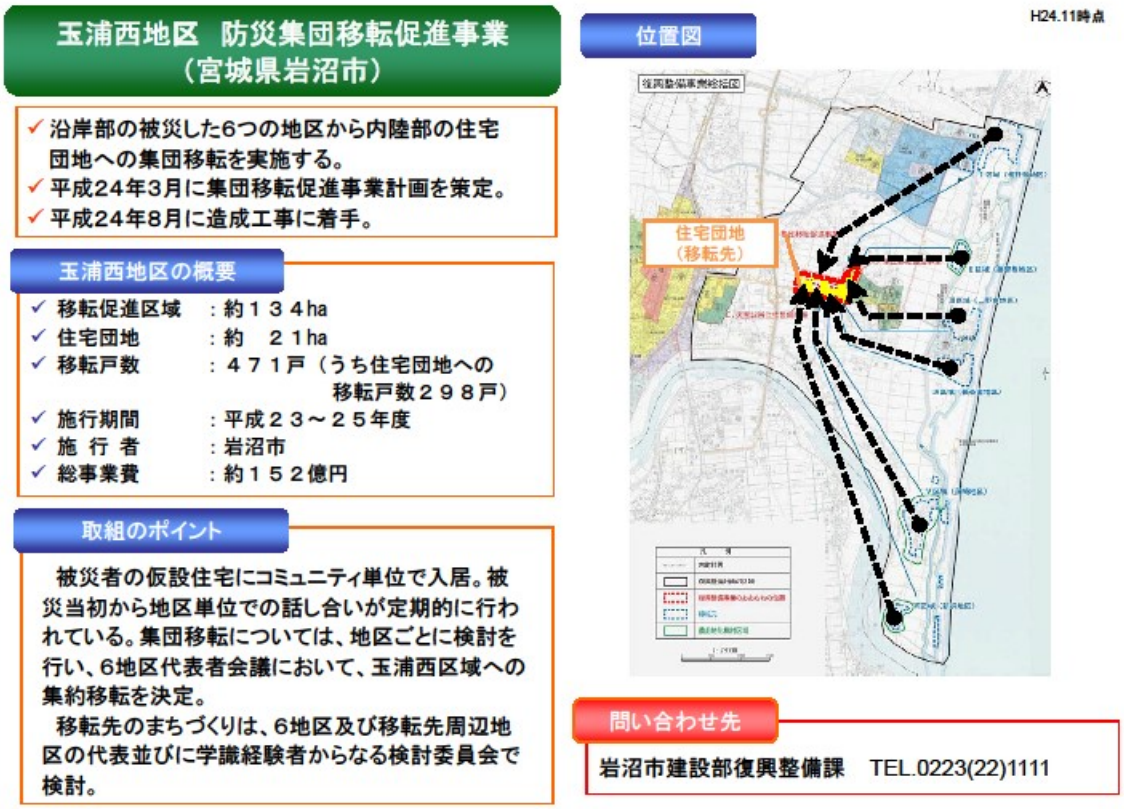
倉橋　正己

◇訪問日時：2022 年 12 月 12 日 10：00～11：45　　東集会所
◇対応者　：岩沼市玉浦西まちづくり住民協議会　会長　　森　博　氏
副会長　菊池　正広　氏
役員　　小林　喜三雄　氏

1．はじめに―

K-TEC では平成 27 年の第 2 回東日本大震災被災地調査＆交流の際、入居が始まり、商業施設もオープンしていた「岩沼市玉浦西地区」を訪れ、津波被災を受けた 6 つの地区が、防災集団移転のトップランナーとして 4 年半後にどのようにして、移転出来たかをお聞きした。

今回は、再度訪れ、移転地での新たな生活の様子や、課題などについてお聞きし、まちの成熟の様子を視察した。（まちづくりの過程などについては K-TEC 発行の「第 2 回東日本大震災被災地調査＆交流」を参照下さい）



6 地区の住民が意見を出し合い、地区ごとの生活圏を決めた玉浦西地区と商業施設（赤色）

2. 居住 7 年間の生活について（会長談）

・コロナで 3 年間、夏祭り（盆踊り）や花見が中止になっていて、コミュニケーションがない状態で、コミュニティが薄れてきたことが課題であり、来年は行事をしてコミュニティを強くしたい。

・盆踊りは 300 人が集まっており，再開をする予定

・イグネの背が伸びてきた。芝生も継続して住民で管理している。

・イグネの枝払いや雑草取り、芝生の雑草取りの共同作業には 150 人～200 人集まってくれる。

まちづくり住民協議会の皆さんとの意見交換

3. 質問に対する、皆さまよりの回答

1）住民組織、コミュニティーは

・沿岸の 6 地区が集団移転してきてから付き合いが増えた。それまでは集落が離れていてあまり付き合いがなかった。ただ、学校区は 1 つなので、学校の行事を通じた交流はあった。

・二野倉からは 100 軒のうち、50 軒がここに移転して来た。他の集落からの参加率も 50%くらい。

・高齢化率は、玉浦西地区で 37%。岩沼市全体は 27%であることから、高齢化したと言われるが、3 世代同居もあり、各世代が混じっていて極端な高齢化の感じはしない。（老・壮・青・少・幼混在の「まち」として、必要な本来の姿と感じた）

・町内会では、高齢者に対する特別な支援はしていない。健康体操で集まって 30 人くらいで交流されている例はある。

・老人会、消防団はある。

・前は青年会があったが、ここではできていない。ソフトボール、バレーボールの団体もあったが、ここではできていない。

・前は「夫婦会（めおとかい）」があり、積み立てて旅行に行ったりしていたが無くなった。

・積立して旅行や飲み会をしている男だけの会はある。

住民の手によるステンドグラスが飾られ

2）住民の生活は

・住民は元々、農業＋会社員（兼業農家）が主だった。

・今は、米作は農業法人に委託している。農業から手が離れ、サラリーマンになっている。

・農業をやめるのは寂しかったが、農業は赤字だったし、津波で農機具が流されてあきらめがついた。若い人は仙台にも近いこともあり、勤めに行っている。また農業法人に勤めている人もいる。

・家庭菜園の場もなくなり、野菜も購入している。

・7 つの農業法人ができている。機械購入費などは 100%の国費が出ている。平均 100 町歩（100Ha）～150 町歩の規模で法人が経営している。

・米は借地料として安く購入している。 1 人年間 30kg の米を 5,000 円。それを超すと 7,000 円になる。

3）今の暮らしは

・前は 1 軒家で隣と 100m 離れていたので、気兼ねなく生活できた。今は隣の家がすぐそばにあるので最初は窮屈で、憂鬱だった。

・買い物は便利になった。女性の皆さんも便利になったと思っている。

・前の集落にはそれぞれ神社があった。ここには神社はない。前の神社には、草刈りや元旦に集まる程度

東集会所での意見交換会を終えて記念写真

・お墓もそのまま置いており、ボランティアで墓石を起こしたり、積み直したりしている。

・住宅が売りに出て、新たな人も入ってきている。新住民に草取り作業を呼びかけたら参加してくれている。
・最初からの 2 世帯住宅はあるが、新たな世帯分離の時は、地区内では余地がなく、近くのマンションに近居する例が多い。
・元々田んぼだったところを、50cm 削り、２m嵩上げしている。石ころが多く入っている土で埋め立てたようだ。上物工事（庭木植樹や花壇つくりなど）がしにくい。

4）家の再建支援
・従前地は、国が宅地部分のみ買い上げてくれた。
・新築に対して、全壊は新築の場合 200 万円、半壊で新築は 100 万円の支援金あり
・玉浦西の土地代は、元地の 4 倍近い値段。（固定資産税の評価額で決まった。）
・取得は 100 坪平均。借地でもよいが 100 坪を超える部分は買い取りが必要。
・土地代は 10 万円/坪。100 坪で 1000 万円。上物が 2000 万円～3000 万円
・公的賃貸住宅は戸建て形式。屋根だけがつながっている戸建て形式もある。家賃は収入に応じて 15,000 円～70,000 円/月で。経過年数で賃料の改定があれば出ていく人もある。

5）街の安全について
・防災マップが最近変わり、最大級の津波が起きたら玉浦西地区も 1～3m浸かることになるようだ。
（日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震予測による見直し）
・避難所は小、中学校だが、近くで垂直避難を考えることも必要。
・今年 3 月 16 日の地震の時は県道が渋滞した。指定避難所の学校へは逃げない。（以前学校へ避難した時、車が浸かってダメになった経験をしているから）
・阿武隈川の洪水もどうなるか。昭和 16 年災害では、岩沼全体が 1～2m浸水した。
・この前の丸森町の水害には、当まちづくり住民協議会からトラック 4 台、20 人が 2 日間泥掻きボランテイアに行った。
・防災訓練はコロナ前まで年 2 回やっていた。

6）震災から 11 年（街びらきから 7 年）
・10 年目は復興庁も来られるなど視察が多かった。今はだんだん減ってきている。
・今から思い起こして、「こうしておけばよかった」という反省点はない。十分議論したから。
・あとは、ソフト面のことに力を入れたい。

手入れの行き届いた緑道を歩きながら懇談を

4. 街を一緒に歩きながら
・街の様子、イグネ(従来の住まいの周辺にあった防風林)（樹種は樫の木）の状況（西側 300m、北側 800m）成長の様子を見ながら
・中集会所　「緑のまちづくり賞」の表彰状、兵庫県からのコミュニティ再生を目的とした寄付の感謝の銘板、ステンドグラス、公園のシンボルツリー、貞山緑道、電柱・電線の話などを聞きながら。

5. 感想
・街びらきから 7 年経ち、街の生活は落ち着いてきているように感じた。
・「計画上の反省点はない」とのこと言葉から、東日本大震災被災自治体職員を神戸にお招きして、開催した「復興まちづくりセミナーin 神戸」の際、六甲道北地区区画整理事業の役員が「反省点はない。十分話し合ってきた」という発言を聞き、参加者が驚いたことを思い出した。

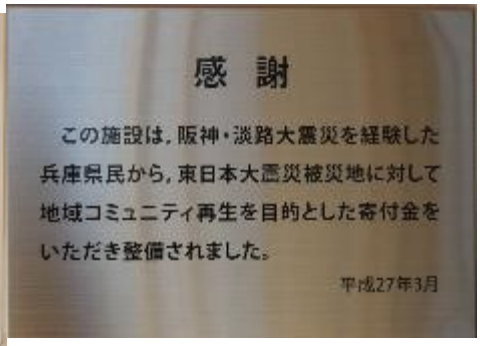
中集会所の前の住民が手入

れしている芝生公園

・イグネは成長してきた。そろそろ上への成長を止めていくようだ。
・公園の芝生もよく手入れされている。
・イグネ・芝生は、住民要望で「維持管理するなら」という条件で市から OK が出た。発案した手前、住民が植え、維持管理をしている。共同作業がコミュニティの維持にもつながっているのは、神戸の街のせせらぎにも共通するところだ。
・まちづくり住民協議会は会長が順次変わっていって、元の 6 つの集落（今は 4 つの町内会になっている）の集合体であることを意識しながらうまく運営されているようだ。
・来年からの花見（中集会所がある公園には、京都・円山公園から送られた枝垂桜が立派に育っている。）や、また、300 名が参加する夏祭り（盆踊り）が復活することを願う。

住宅地周辺のイグネの成長の様子

国土交通省よりの「緑の都市賞」表彰額



兵庫県民の支援に対する感謝状